

# ウェーブ

## 時評



田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総研国際戦略研究所理事長(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー。

### 国際リニアコライダー

も東北地方はこのプロジェクトを地域の活性化につなげる総合的なプランを持つ必要があるのだから。

15年前に外務省を退官してから地方に行くことが多くなった。外務省時代には海外出張は多かったが、国内出張はほとんどなかった。それが故に、地方に行き地方都市の現状について知ることを楽しみにしている。とりわけ私の関心事は地方がどれだけ知恵を使って活性化を図っているかという事だ。活性化のカギはその地の特性を活用できているかということ、毎年増え続けている海外からの観光客に魅力的な地かどうかということだと思ふ。

先日、長崎県に行き、講演を行った。それぞれ観光資源は豊かだと思ふが、おそらく観光客は長崎

だけを訪れるというより、他の都市と併せて観光をするのだろうし、広域的な観光を行うための都市間の連携や観光インフラが整備されているかどうかが重要な点だ。長崎を訪れた後、大阪で初めて道頓堀を歩いてみた。大阪の特性は圧倒的な食文化だ。多くの中国人の姿を見かけた。

東北地方はあまり訪れる機会がない。しかし東日本大震災が起きたとき、「Hope for Tomorrow」というNPOを立ち上げ、被災した大学受験生の支援を行った事もあり、東北地方の復興や地域活性化の問題に関心を持ってきた。その中で、私の

不勉強から全く知らなかった「国際リニアコライダー(ILC)」誘致計画について知るようになった。これは実現すれば地域活性化の起爆剤となるはずだと思ふ。ILCは地下100m、全長20kmという巨大な地下トンネルを掘り、その中で電子と陽電子を光速に近い速度まで加速し正面衝突をさせることにより、ビッグバン直後の状態を再現し、宇宙や物質誕生の謎を解明するという壮大なプロジェクトだ。

これは国際的な学術研究プロジェクトとして推進されてきており、振動が少ない固いかつ長い地盤があることが立地の条件で、岩かということだろう。そのために東北地方の熱意は強い。これからの最大の課題は国が国家プロジェクトと位置付け、実現に向けて積極的に誘致の先頭に立つかどうかということだろう。この実現を心から願いたいと思ふ。

日本の未来を考えると、人口が減り続ける地方の活性化を図ることが最も緊急性が高い課題だと思ふ。確かにILCの実現に膨大な予算が必要になるが、この実現は未来への日本の投資として十分価値がある。日本のような国がこれから停滞を免れ、繁栄を確保するためにどうしても必要なのはイノベーションだ。単に技術的イノベーションだけではなく、考え方のイノベーションも重要だ。